

第12回トウキョウサンショウウオ・シンポジウム
**「サンショウウオに迫る新たな脅威：
その現状と対策」**

2010年2月13日(土)

東京都立多摩社会教育会館 鑑賞室

所在地 〒190-8543 立川市錦町 6-3-1 (東京都多摩教育センター内)

電話：042-524-7950 FAX：042-522-0719

1999年より開催されてきたトウキョウサンショウウオ・シンポジウムは、毎年全国より多数の研究者・保全活動家・ファンが集まって情報交換できる貴重な場として回を重ね、今年でとうとう12回目をむかえました。一昨年・昨年は、1998年の調査から10年ぶりの多摩地区全域での一斉調査を行い、トウキョウサンショウウオの現状をあらためて明らかとすることができました。その成果の一部は、現在進行中の都RDB改訂作業に取り入れられることと思います。10年前の大きな問題は何と言っても開発による生息地の消失・破壊でしたが、現在の緊急の課題は主要な繁殖場である谷戸田の休耕田化による乾燥化です。さらに、今回の調査で、トウキョウサンショウウオへの新たな脅威が浮き上がってきました。このシンポでも繰り返し取り上げられてきた外来種アライグマの成体・卵のうの捕食、マスコミでも盛んに取り上げられたツボカビなどの病原体、一部の地域では深刻化している売買目的と思われる卵のうの盗難などが今後の深刻な課題となるでしょう。今回のシンポではそれら新たな脅威について、それぞれ調査研究や具体的な対策を行ってきた方たちに活動紹介と話題を提供していただきます。ひとりでも多くの方の参加を期待しています。

主催／トウキョウサンショウウオ研究会

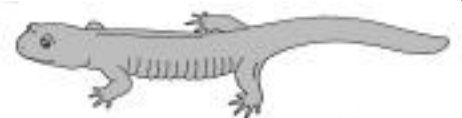
事務局(川上洋一)：東京都あきる野市平沢 473-6 Tel&FAX 042-550-0265

問い合わせ先：草野(首都大・理工・生命科学) Tel 042-677-1111 (内線 3761)

<http://homepage2.nifty.com/tkusano/salamander/index.html>

プログラム

- 13:00 開場
- 13:20 開会 (司会：川上洋一)
- 13:30 講演 サンショウウオに迫る新たな脅威：その現状と対策
- 13:30 日本の両生類と感染症 松井久実(麻布大・獣医・生理)
- 14:00 日の出谷戸沢処分場におけるトウキョウサンショウウオ保護と産卵状況について 三田村浩昭(東京たま広域資源循環組合)
- 14:30 特定外来生物アライグマの問題と対策 金田正人(三浦半島自然誌研究会)
- 15:00 休憩
- 15:15 報告 国営武蔵丘陵森林公園における動植物の保護活動 谷津弘子
(NPO 法人武蔵丘陵森林公園の自然を考える会)
- 15:45 スライド上映 沖縄本島ラナウイルス・カエルツボカビ症調査紀行
佐久間 聡
- 16:15 連絡・後片付けなど
- 16:30 閉会(閉会後に懇親会を予定しております。)



日本の両生類と感染症

松井久実（麻布大・獣医・生理）

私達フィールドの両生類を相手に活動する人間は、フィールドで発生する病気も生態系の様相の一部として捉えてきました。しかし近年の各地の両生類激減は待ったなしの状況である事が多く、また、新しい感染症の報告は、病気も自然の一部、と悠長に構えてられない現状を知らせています。

私達は両生類に直接ふれあう機会が多い存在として、2つの大きな役割を担っているといえます。一つは、自らが病気を持ち込む介在者とならず、周囲にも防除の知識を周知していく役割です。これは、自身のフィールドでの行動管理、器具取扱い時の注意を守る事で、既知・未知の病気に対して対処できます。もう一点は、フィールドで起こりうる病気を発見する目となる事です。フィールドでの病気の発生は、一番身近な人間であるフィールドワーカーが、最も早く発見するチャンスを持っています。

この2つの役割は、両生類に感染する病気およびその病原体の性質を知るという一点から成っています。

今回は、両生類に知られる感染症・病原体について解説した後、近年トピックになっているカエルツボカビ、ラナウィルスについての情報をお話しする予定です

日の出谷戸沢処分場におけるトウキョウサンショウウオ保護と産卵状況について

三田村浩昭（東京たま広域資源循環組合）

内容

1) 保護対策の目的と経緯

—どのような経緯で、トウキョウサンショウウオの調査が始まったのかまた、どのような保護対策をとってきたのか

処分場造成計画に伴う環境アセスメントにより調査を実施
事後調査の計画を立案し、産卵状況調査を開始する
産卵場所の減少による影響を軽減するため、人工の産卵池の造成を行う
自然、人工の産卵池が土砂に埋まってしまうので、毎年整備を行う。

2) 25年間に渡る産卵数の推移

—25年間の産卵卵のう数の推移

産卵数全数の推移

組合管理区域内での地点別の産卵数の推移

対策の成果

3) アライグマ被害と盗難被害

—近年明らかになった二つの被害について

アライグマ被害の状況

成体の被害（死骸の確認）、CCDカメラによる撮影

アライグマ被害対策について

盗難被害の状況

発見の経緯と被害状況

4) 今後の対策

—今後どのような対策をとっていくのか

処分場管理の考え方

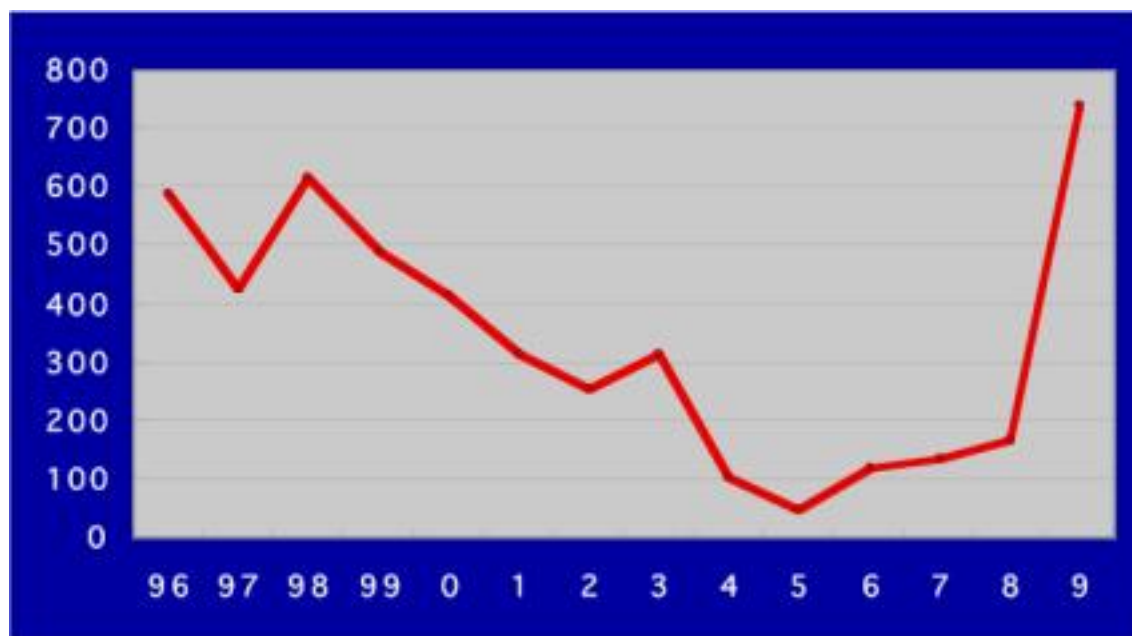
今後の盗難対策について

特定外来生物アライグマの問題と対策

金田正人（三浦半島自然誌研究会）

特定外来生物アライグマ（*Procyon lotor*）によるトウキョウサンショウウオの被食害の影響については、第7回トウキョウサンショウウオシンポジウム（2005年、<http://homepage2.nifty.com/tkusano/salamander/sympo-ab25.htm>）でも報告させていただいた。2005年当時には40都道府県での生息確認が得られていたアライグマは既に全国で生息が認められ、トウキョウサンショウウオだけではなく、他の小動物にも影響がでているとの報告も各地からなされてくるようになっている。一方、アライグマの対策のほとんどは、被害が認められてから講じる対症療法ばかりで、かつ、そのほとんどは農作物被害や家屋侵入等の生活被害に限定されている。

トウキョウサンショウウオの被食害を防ぐための手技として、サンショウウオの産卵池を電気柵で保護する、被食害の前に卵や成体を保護する、卵を安全に産むための物理的に防護するなどの方法も試行してきたが、確実な対策となり得るのは地域におけるアライグマを根絶または減少することと考えられる。捕獲に際しては、行政的な手続きや捕獲手法そのものなどの課題も残るが、実際にはどのようにアライグマを捕獲していくと良いかについて、紹介させていただく。

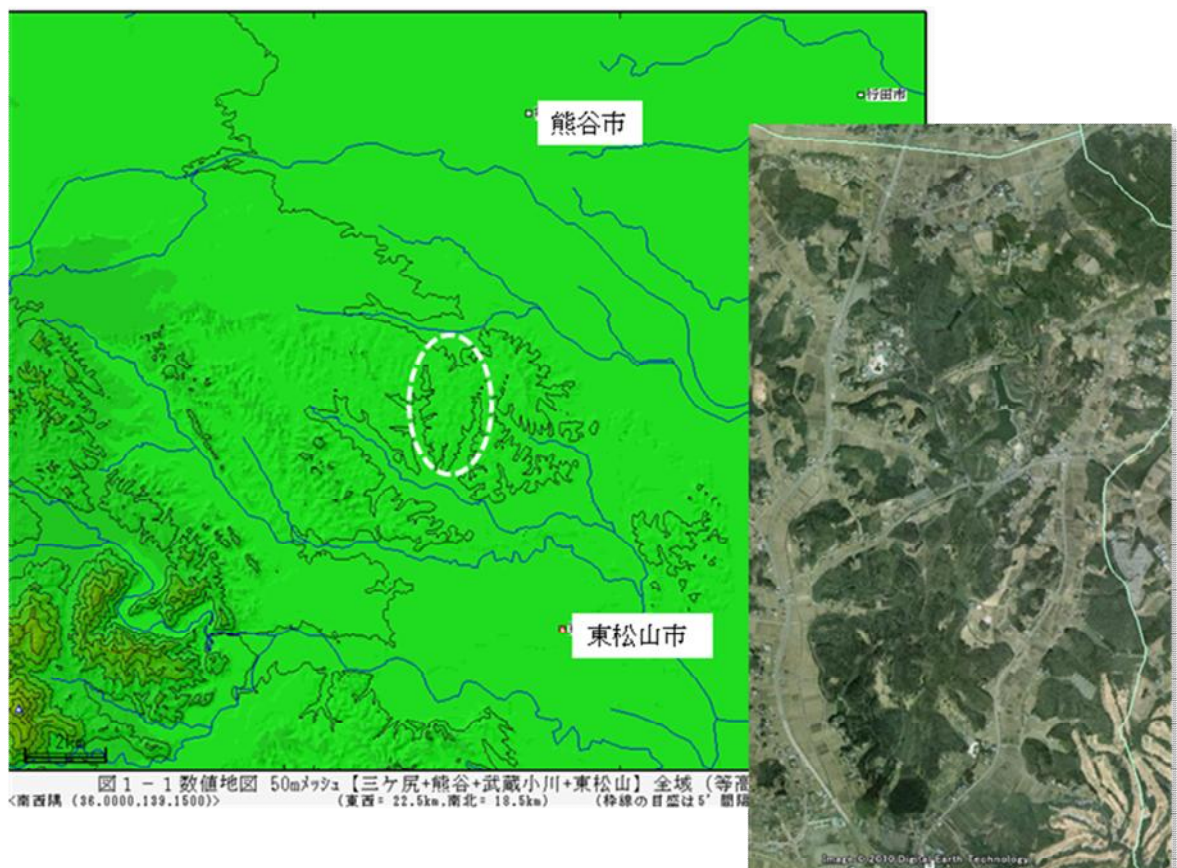


図：葉山町鬼ヶ作谷戸におけるヤマアカガエル（*Rana ornativentris*）の産卵数の推移。2006年に谷戸の周囲1km内で徹底的にアライグマを駆除し、その後も、その範囲内では捕獲を継続した。2009年に産卵数が激増した。

国営武蔵丘陵森林公園における動植物の保護活動

谷津弘子（NPO 法人武蔵丘陵森林公園の自然を考える会）

- ① 国営武蔵丘陵森林公園の紹介
 - 1) 森林公園の概要と特色
- ② 当会の紹介
 - 1) 森林公園での動植物保護活動の意義について
 - 2) 当会の活動状況（過去・現在）
- ③ 公園でのトウキョウサンショウウオの保護活動について
 - 1) 生息状況
 - 2) 活動の内容
 - 3) 今後の展望



スライド上映 沖縄本島ラナウイルス・カエルツボカビ症調査紀行

佐久間 聡

本スライドは2009年5月28日～31日の4日間、沖縄本島でラナウイルス・カエルツボカビ症調査を行う麻布大学宇根先生の現地や生息地の案内役として同行し、調査協力を行った様子をスライド上映するものです。

5月28日～30日は、沖縄本島北部で調査を実施し、両生類ではイボイモリ、シリケンイモリ、リュウキュウアカガエル、ナミエガエル、イシカワガエル、ハナサキガエル、ホルストガエル、オキナワアオガエル、リュウキュウカジカガエル、ヒメアマガエルの10種を観察した。

また、その内沖縄県指定天然記念物のイボイモリ、ナミエガエル、イシカワガエル、ホルストガエルの4種はカエルツボカビ症スワブ調査、それ以外の両生類および同一水系に生息する魚類、甲殻類、貝類、水生昆虫（ヤゴ）はラナウイルス・カエルツボカビ症検査用の検体として、必要最小限の個体を採取した。

爬虫類は、ミナミヤモリ、オンナダケヤモリ、ホオグロヤモリ、クロイワトカゲモドキ、オキナワキノボリトカゲ、ヘリグロヒメトカゲ、リュウキュウアオヘビ、アカマタ、ガラスヒバア、ハブ、ヒメハブを観察した。

5月31日は南部に移動し、ラナウイルス・カエルツボカビ症検査用の検体としてシリケンイモリを採取した。

最後に、宇根先生とアシスタント役の旦那様、本調査旅行で同行した東京農業大学



野生動物研究会の吉田譲君、一晩だけでしたが調査に同行していただいた動物写真家の徳田龍弘氏、西多摩自然フォーラム会員の小勝さんに感謝いたします。

なお「沖縄本島ラナウイルス・カエルツボカビ症調査協力紀行」は、自身のHP「生きものの便り」 <http://www.ikimono.net> に掲載しています。